

令和4年度文化芸術による子供育成推進事業－巡回公演事業－

ワークショップ実施計画書

制作団体名	株式会社プロシード・アーツ
公演団体名	関西演芸協会

内容



- 初めて上方演芸を鑑賞する人のために（寄席の名前を考えよう！）
- 漫才とは。実演と解説（言葉遊び～アイウエオ作文）
- 落語とは。実演と解説（お茶子さんの働き）
- 寄席囃子とは。実演と解説（一番太鼓の実演）
- 漫才『お楽しみ』（漫才のプレ実演）

休憩

- 本公演時に共演する児童・生徒のみなさんへご指導を行います。

①寄席の名前を考えよう（ワークショップ参加者全員で体験）

学校に寄席を呼ぼう！というテーマで、「〇□〇□ 寄席」と言うように寄席の名前を考えて下さい。みんなで考えた寄席の名前は本公演まで大切に使ってゆきます。

⇒ 本公演では「〇□〇□ 寄席」という名称で公演します。
寄席のシンボル 提灯に名前を入れて入口を飾ります。

②あなたも今日から漫才師（参加人数2～3名×5組）

漫才にはボケ役とツッコミ役があり、2人の当意即妙な言葉のキャッチボールが上方漫才（しゃべくり漫才）の真骨頂です。ショートストーリーを2人考え、2人で稽古（ネタあわせ）し、発表します。2人のコンビ名も考えて下さい。

⇒ 本公演では舞台の上で創作漫才を発表します。
状況によっては 客席スペースからの発表の可能性もあります。

☞ ワorkshop事前指導時に、わかり易い創作漫才のテキストとDVDをワークショップに参加する子どもたちと指導する先生方に配布いたします。そのテキストを基に漫才を構築してゆきます。本公演までの間、進捗状況を確認しフォローアップいたします。

③大喜利 ～ アイウエオ作文に挑戦 ～

(参加人数5名×2組)

名前の頭文字からイメージを膨らませる リレー方式の言葉遊びです。みんなで決めた寄席の名前の頭文字を取って、ひとりひとりが短文を創り一つのお話を作るという創作体験です。起承転結を考え、みんなで連携しながら、一つのお話を創り上げて行く所が、アイウエオ作文の醍醐味です。

例文 身近な単語を使って アイウエオ作文を創ると

ふ 冬といえばウィンタースポーツ 〈元気いっぱいヴァージョン〉
ゆ 雪がたっぷり降り積る
や 山が僕を呼んでいる
す スノーボードで滑走するぞ
み みんな大好き 冬休み

ふ 冬は寒いし 凍えるし 〈元気だせよ ヴァージョン〉
ゆ 雪かき仕事は大変です
や 休みなんて ありません
す ストーブだけが友達です
み みんなが嫌いな冬が来た

⇒ 本公演では舞台の上で5名一組でアイウエオ作文を発表します。
状況によっては 客席スペースからの発表の場合もあります。
同じ単語でテキストの違う文章を作るとその対比が鮮明になります。

㊦ ワークショップ事前指導時に、大変わかり易いアイウエオ作文創作方法のテキストをワークショップに参加する子どもたちと指導する先生方の部数お渡しします。記入形式のテキストに書き込みながらお使い下さい。

④一番太鼓

(参加人数2名～20名柔軟に対応)

ワークショップ時に練習した一番太鼓の発表の場です。

寄席の開演を告げる一番太鼓を子ども達に力一杯叩いて頂きます。

⇒ 本公演では入場時に落語家と一緒に太鼓を打って頂きます。
フロアスペースで距離を取って活動します。

㊦ 先ほどの実演で演奏しました『一番太鼓』は、簡単なメロディを何度も繰り返し打つ事が特徴です。1フレーズを交代しながら、入場終了までの間、打ち続けます。本公演までの期間お貸した撥・簡単な楽譜・DVD を使ってお稽古して頂きます。

⑤お茶子さん修行

(参加人数2名～6名)

高座の座布団の返し、名びら(めぐり)の返し、見台 膝隠しの上げ下げなど上方落語のしきたりに乗っ取ってお茶子さん修行をしていただきます。

⇒ 本公演では舞台転換時にお茶子さんとして活動します。舞台上で活動します。
待機する場所は出演者が使用する反対側の袖を使います。

㊦ 寄席を円滑に進める進行役 お茶子さん。本公演の進行表に基づき、ワークショップで事前指導の上、DVD などでお稽古して頂きます。

□本公演はワークショップのお稽古から始まります

学校により児童・生徒人数や受け入れ環境はさまざまです。ワークショップの取り組み方や参加人数等にも各校の配慮が必要である事は多くの学校公演で経験しました。基本的な提案に基づきながら各学校の御事情に従い相談を重ねながら最も適切で効果的なワークショップ・本公演に取り組んで参ります。また、公演当日及びワークショップ時には、「文化芸術による子供の育成事業」の経験者がスタッフとして同行いたします。

公演時間・開演時間・休憩の有無・事後交流などの御相談も承ります。体験・参加することが本公演への理解を進める基本ですが、御事情によって一部・全部を割愛する事も可能です。午前;ワークショップ 午後;本公演 本公演の中に参加できるワークショップを盛り込む などご希望を承ることも出来ます。新型コロナウイルス感染症の影響を受け、訪問が出来ない様な状況の場合、リモートやDVD やテキストを使った非接触型ワークショップも対応可能です。

弊社もできる限りのサポートをいたしますので、学校様のご要望を伺いながらプログラムを一緒にお創ります。多数の公演実績を誇る弊社ならではのサポートと配慮で各校の抱える心配を支えます。

タイムスケジュール（標準）

■ 午前1回 ワークショップの場合

前日仕込み(有・○無) 会場準備の所要時間(1時間程度)

到着	仕込み	本公演	内休憩	撤去	退出
8:00	8:00～ 9:00	9:00～10:30	10分	10:30～11:30	11:40

※ワークショップの公演時間の目安は、約1時30分です。

※原則的に、前日仕込みは予定しておりませんが、開演時間など相談を要する場合は前日 17時00分～ 一時間程度 準備をお願いする場合があります。

■ 午後1回 ワークショップの場合

前日仕込み(有・○無) 会場設営の所要時間(1時間程度)

到着	仕込み	本公演	内休憩	撤去	退出
12:30	12:30～ 13:30	13:30～15:00	10分	15:00～16:00	16:10

※ワークショップの公演時間の目安は、約1時30分です。

※原則的に、前日仕込みは予定しておりませんが、開演時間など相談を要する場合は前日 17時00分～ 一時間程度 準備をお願いする場合があります。

派遣者数

派遣人数 5名 内 講師 5名

学校における事前指導

事前指導などは特に必要としません。
体操服 など 動きやすい服装でご参加下さい。暑い時期ですので熱中症対策も
お願いします。

令和4年度文化芸術による子供育成推進事業－巡回公演事業－

本公演実施計画書

制作団体名	株式会社プロシード・アーツ	
公演団体名	関西演芸協会	

演目		
中学生の場合 公演時間 約90～100分 (休憩含む)		
演目	時間	備考
一番太鼓でお出迎え		生徒参加コーナー
寄席お囃子教室	約10分	
漫才	約15分	
古典落語『時うどん』他	約15分	
大喜利 アイウエオ作文発表	約10分	生徒参加コーナー
休憩		
あなたも今日から漫才師	約10分	生徒参加コーナー
色物『太神楽』	約15分	
はめもの落語『饅頭怖い』	約20分	
小学生の場合 公演時間 約80～90分 (休憩含む)		
演目	時間	備考
一番太鼓でお出迎え		児童参加コーナー
寄席お囃子教室	約10分	
漫才	約10分	
古典落語『動物園』他	約10分	
大喜利 アイウエオ作文発表	約10分	児童参加コーナー
休憩		
あなたも今日から漫才師	約10分	児童参加コーナー
色物『太神楽』	約10分	
はめもの落語『饅頭怖い』	約15分	

演目解説

■ 一番太鼓でお出迎えと上方の寄席囃子でお出迎え (ワークショップ)

寄席の開場を告げる、子どもたちによる一番太鼓の演奏です。

■ 上方寄席囃子教室

上方落語特有の三味線、大太鼓、締太鼓、笛、銅鑼、鉦、拍子木、等、特徴ある邦楽器の紹介と上方の寄席囃子を紹介いたします。



■ 漫才

会場の子どもの気持ちを掬い上げるような楽しい漫才が始まります。上方演芸の特長とも言うべきおしゃべり漫才を、お楽しみください。



■ 上方古典落語

先ずは一席。派手で陽気な上方落語を聞いて頂きます。落語は、60cm×60cmの座布団の上で演じられる世界です。一人の落語家が複数の登場人物を演じわけ、さまざまな情景を表現する落語特有の世界をご覧ください。



■ **大喜利 ～アイウエオ作文を創ろう～** (ワークショップ)

子ども達による大喜利のコーナーです。5つの文字を使ってショートストーリーを創り、発表しましょう。

休憩

■ **あなたも今日から漫才師 ～漫才体験しよう～** (ワークショップ)

子ども達による漫才発表のコーナーです。プロの漫才師のサポートを受けながら当意即妙な会話がたのしい漫才を実演していただきます。

■ **色物**

色物は、太神楽や日本手品 など日本の伝統芸能を子どもたちが最後まで退屈せずに寄席を楽しめるよう構成いたします。



■ **上方寄席 「はめもの落語」**

上方落語特有の賑やかな《はめもの落語》に出会って頂きます。はめもの落語とは、落語を演じる落語家の語り口に合わせて、囃子方が効果音を演奏し情景描写する事です。演劇的手法と臨場感あふれるステージに、子どもたちは自然と落語の世界へ誘われて行きます。賑やかで華やかな、上方落語の真骨頂です。



桂 福団治によるはめもの落語 「饅頭こわい」より

演目；饅頭こわい （まんじゅうこわい）

「地震、雷、火事、おやじ」。昔から、怖いものの例えにこんな言葉があります。人間というものは、世の中に何か一つは怖いものがあるようです。この世の中に怖いものはないと粹がっている人ほど、実は思いがけないものを怖がったりするものです。暗闇、幽霊、蛇、高いところ……。さて、この噺の主人公は一体何が怖いのでしょうか？若者たちが車座になって会話を楽しむシーンなどを、陽気で賑やかな鳴り物が表現します。寄席囃子がちりばめられた「はめもの落語」をお聞き下さい。

児童生徒の公演への参加方法、公演に参加させるための工夫



■公演に参加するための工夫

実演体験者に関しては、テキスト 創作ノート(仮)を配布し、活用していただきます。また、解りやすい学習用の DVD を配布いたします。本公演までの間 それらを使って継続的に創作・お稽古して頂きます。尚、希望校には先生対象のレクチャーの時間を設けさせて頂き、フォローアップして参ります。

公演当日、実演体験者として参加いただく子ども達は、法被(はっぴ)を着用して頂きます。法被(はっぴ)の代わりに 学校でお使いのタスキを付けて頂く場合もあります。ワークショップを経験し、本公演まで頑張ってお稽古した子ども達の成果を発表する場として 伝統芸能らしい衣装で出演して頂きます。

■本公演までの興味付けとしての事前学習

図書館で落語の本を見つけ、どんなお噺があるのか調べてリストアップしてみましよう。また、当日の『お楽しみ』で登場する落語が、どんなお噺なのかを事後に調べるのも楽しい作業になると思います。放送委員が お昼の放送で 落語に関する書籍の紹介や落語のお噺を紹介し、本公演への興味付けをするとより効果的です。また、本公演へ参加する事を楽しみに待つて頂く為に、ワークショップ時にお昼休みの放送の中で、告知を予定しています。

■本公演はワークショップのお稽古から始まります。

公演時間・開演時間・休憩の有無・事後交流などの御相談も承ります。体験・参加することが本公演への理解を進める基本ですが、御事情によって一部・全部を割愛する事も可能です。午前；ワークショップ 午後；本公演 本公演の中に参加できるワ

ークショップを盛り込む 等 ご希望を承ることも出来ます。DVD やテキストを使った非接触型ワークショップ(訪問はいたしません)も対応可能です。

弊社もできる限りのサポートをいたしますので、学校様のご要望を伺いながらプログラムを一緒にお創りします。多数の公演実績を誇る弊社ならではのサポートと配慮で各校の抱える心配を支えます。

基本的な提案に基づきながら各学校の御事情に従い相談を重ねながら最も適切で効果的なワークショップ・本公演に取り組んで参ります。また、公演当日及びワークショップ時には、「文化芸術による子供の育成事業」の経験者がスタッフとして同行いたします。

児童生徒とのふれあい



■公演に参加するための工夫

実演体験者に関しては、テキスト 創作ノート(仮)を配布し、活用していただきます。また、解りやすい学習用の DVD を配布いたします。本公演までの間 それらを使って継続的に創作・お稽古して頂きます。尚、希望校には先生対象のレクチャーの時間を設けさせて頂き、フォローアップして参ります。

公演当日、実演体験者として参加いただく子ども達は、法被(はっぴ)を着用して頂きます。法被(はっぴ)の代わりに 学校でお使いのタスキを付けて頂く場合もあります。ワークショップを経験し、本公演まで頑張ってお稽古した子ども達の成果を発表する場として 伝統芸能らしい衣装で出演して頂きます。

■本公演までの興味付けとしての事前学習

図書館で落語の本を見つけ、どんなお噺があるのか調べてリストアップしてみましょう。また、当日の『お楽しみ』で登場する落語が、どんなお噺なのかを事後に調べるのも楽しい作業になると思います。放送委員が お昼の放送で 落語に関する書籍の紹介や落語のお噺を紹介し、本公演への興味付けをするとより効果的です。

■本公演はワークショップのお稽古から始まります。

公演時間・開演時間・休憩の有無・事後交流などの御相談も承ります。体験・参加することが本公演への理解を進める基本ですが、御事情によって一部・全部を

割愛する事も可能です。午前;ワークショップ 午後;本公演 本公演の中に参加できるワークショップを盛り込む などご希望を承ることも出来ます。DVD やテキストを使った非接触型ワークショップ(訪問はいたしません)も対応可能です。

弊社もできる限りのサポートをいたしますので、学校様のご要望を伺いながらプログラムを一緒にお創りします。多数の公演実績を誇る弊社ならではのサポートと配慮で各校の抱える心配を支えます。

基本的な提案に基づきながら各学校の御事情に従い相談を重ねながら最も適切で効果的なワークショップ・本公演に取り組んで参ります。また、公演当日及びワークショップ時には、「文化芸術による子供の育成事業」の経験者がスタッフとして同行いたします。